

大きなバイアス要因にはならないと考えられる。

扶養家族 「扶養・世話をする家族なし」と回答したものは全体の約 4 分の 1 (27.1%) であった。「親」と回答したものは 15%、15 歳以上の子供は 25.2% であった。「扶養なし」、「親」と回答したものの割合に大きな変化はないが、「15 歳以上の子供」については、少なくなっている。

3. 2. 労働条件と労働環境

就業形態 回答者の 90.2% (194 名) が正社員であり、嘱託・期間契約等その他の形態が 21 名であった。

2008 年 1 月の勤務条件・勤務時間 2008 年 1 月の勤務時間・勤務条件について、表 2-1～表 2-5 にまとめた。

勤務回数や早出・遅出などの条件に大き

な変化は認められなかったが、勤務時間・残業時間については、これまでとの比較で短くなっていた (表 2-1)。特に勤務時間については、平均値で 5 時間程度の短縮となっている。

深夜勤務回数、深夜時間帯での仮眠の有無について、それぞれ表 2-2、表 2-3 に示す。これらについては、規制の影響が大きく、経年的な変化は特に見られない。ただし、一部に極端な例が認められ、事実の確認あるいはその影響についての詳細な研等が必要と考えられる。

休日日数・休日勤務 (表 2-4、表 2-5) についても傾向は一定しており、経時的な変化は認められていない。

実車・走行距離と休憩時間 前回調査に引き続き、労働強度の指標として労働時間以外に実車距離と走行距離を加えた。いずれ

表2-4 休日勤務の有無

	回答者数 (%)
よくある	33 (15.6%)
たまにある	66 (31.1%)
ない	113 (53.3%)

表2-5 2007年1月の休日日数

日	回答者数 (%)
0	2 (1.0%)
1～4	27 (12.9%)
5～8	126 (60.3%)
9～	54 (25.8%)
平均値±標準偏差	7.7±4.2
範囲	(0.0～23.0)

表3 2008年1月の実車・走行距離と休憩時間

	回答者数	平均値±標準偏差	中央値	範囲
実車距離(km)	195	1430±723	1400	(0～4550)
走行距離(km)	209	3048±1020	3100	(0～7200)
休憩時間(h)	205	2.6±0.9	3	(0.0～5.5)

も 2008 年 1 月の実績を聞いている。

変わらないが、走行距離、実車距離ともに減少している。

表 3 に示すとおり、走行距離の平均値は 1 ヶ月間で約 3048km であったが、そのうち客を伴う実車距離は半分以下の 1430km であった。昨年と比較すると、この比率は

前回の調査以降の働き方の変化 これも前回調査に引き続き、走行距離などタクシー運転業務における労働強度の指標について、

表4-1 2007年2月(前回調査)～2007年12月(運賃改定)の働き方の変化

変化の内容	増えた	減った	変わらない	ない	合計
～12月変化:実車時間	9(4.2%)	69(32.4%)	135(63.4%)		213(100.0%)
～12月変化:実車距離	10(4.7%)	73(34.4%)	129(60.8%)		212(100.0%)
～12月変化:実車回数	6(2.8%)	83(39.2%)	123(58.0%)		212(100.0%)
～12月変化:走行距離	28(13.1%)	59(27.7%)	126(59.2%)		213(100.0%)
～12月変化:客待ち時間	87(40.8%)	10(4.7%)	107(50.2%)	9(4.2%)	213(100.0%)
～12月変化:車を流す時間	78(36.6%)	20(9.4%)	107(50.2%)	8(3.8%)	213(100.0%)
～12月変化:休憩時間	11(5.1%)	30(14.0%)	170(79.4%)	3(1.4%)	214(100.0%)
～12月変化:仮眠時間	4(1.9%)	16(7.5%)	106(49.5%)	88(41.1%)	214(100.0%)
～12月変化:休日勤務回数	7(3.3%)	7(3.3%)	128(59.8%)	72(33.6%)	214(100.0%)
～12月変化:ノルマ	8(3.8%)	2(0.9%)	139(65.6%)	63(29.7%)	213(100.0%)
～12月変化:ノルマ達成	5(4.5%)	31(27.9%)	75(67.6%)		111(100.0%)

表4-2 2007年12月(運賃改定)～2008年2月(今回調査)の働き方の変化

変化の内容	増えた	減った	変わらない	ない	合計
12月～変化:実車時間	4(1.9%)	103(48.6%)	105(49.5%)		212(100.0%)
12月～変化:実車距離	5(2.4%)	107(51.0%)	98(46.7%)		210(100.0%)
12月～変化:実車回数	5(2.4%)	117(56.0%)	87(41.6%)		209(100.0%)
12月～変化:走行距離	30(14.3%)	71(33.8%)	109(51.9%)		210(100.0%)
12月～変化:客待ち時間	96(45.7%)	12(5.7%)	91(43.3%)	11(5.2%)	210(100.0%)
12月～変化:車を流す時間	93(44.3%)	17(8.1%)	90(42.9%)	10(4.8%)	210(100.0%)
12月～変化:休憩時間	8(3.8%)	35(16.7%)	163(77.6%)	4(1.9%)	210(100.0%)
12月～変化:仮眠時間	5(2.4%)	15(7.2%)	101(48.6%)	87(41.8%)	208(100.0%)
12月～変化:休日勤務回数	5(2.4%)	4(1.9%)	128(61.0%)	73(34.8%)	210(100.0%)
12月～変化:ノルマ	6(2.9%)	6(2.9%)	130(63.1%)	64(31.1%)	206(100.0%)
12月～変化:ノルマ達成	4(3.7%)	32(29.6%)	72(66.7%)		108(100.0%)

過去一年間の変化を聞いた。ただし、既に述べたとおり、今回は2007年12月の料金の改定の前後に分けて聞いている。表4-1に前回調査後から料金改定まで（2007年2月～12月）、表4-2に料金改定以降（2008

年1月～2月）の結果をそれぞれ示す。

料金改定まで（表4-1）をみると、前回調査同様、「客待ち時間」と「車を流す時間」の各項目で「増えた」とする回答が目立ち、これに呼応して「実車時間」、「実車距離」、

表5-1 乗務中のヒヤリ・ハットの経験とその原因

過去一年間の ヒヤリ・ハット 経験の頻度	ヒヤリ・ハットの原因					計
	自分自身	お客	歩行者 対向車	車の調子 道路の状態	その他	
全く／ほとんどなし	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	5(2.3%)
一度くらい	0(0.0%)	0(0.0%)	3(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	64(29.9%)
時々	33(26.8%)	5(4.1%)	81(65.9%)	1(0.8%)	3(2.4%)	127(59.3%)
頻繁	5(29.4%)	0(0.0%)	9(52.9%)	1(5.9%)	2(11.8%)	18(8.4%)
合計	38(26.6%)	5(3.5%)	93(65.0%)	2(1.4%)	5(3.5%)	214(100.0%)

*設問では「時々」「頻繁」の場合のみ原因の回答を求めている。

表5-2 乗務中の交通事故の経験とその原因

過去一年間の 交通事故経験 の頻度	交通事故の原因					計
	自分自身	お客	歩行者 対向車	車の調子 道路の状態	その他	
全くなし	0(0.0%)	0(0.0%)	1(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	150(70.1%)
1回	3(75.0%)	0(0.0%)	1(25.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	53(24.8%)
2回	3(33.3%)	1(11.1%)	4(44.4%)	0(0.0%)	1(11.1%)	9(4.2%)
3回以上	1(50.0%)	0(0.0%)	1(50.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(0.9%)
合計	7(43.8%)	1(6.3%)	7(43.8%)	0(0.0%)	1(6.3%)	214(100.0%)

*設問では「2回」「3回以上」の場合のみ原因の回答を求めている。

表5-3 乗務中の強い眠気や居眠りの経験

	回答者数(%)
全くなし	56 (26.0%)
まれに(1回／年)	77 (35.8%)
時々(1回以上／月)	68 (31.6%)
頻繁(1回以上／週)	14 (6.5%)

「実車回数」、「走行距離」そして「ノルマ達成」の各項目で「減った」とする回答が目立った。ただし、前回調査時は「実車」に関連する項目で「増えた」とする回答も10%程度はあったが、今回はこれらが軒並み5%未満にまで落ち込んでいる。

料金改定後の変化はより明らかで、「実車時間・距離・回数」のいずれについてもほぼ半数が「減った」と回答しており、これに対応して「客待ち時間」や「車を流す時間」が増えている。

ハイヤー・タクシー運転中の安全 運転中の安全に関しては、ヒヤリ・ハットの経験、交通事故の経験、そして乗務中の強い眠気や居眠りの経験について聞いた(表 5-1～表 5-3)。

表 5-1 は運転中のヒヤリ・ハットの経験の有無と、その原因の分布である。なお、

調査票では、本来「時々」、「頻繁」と回答したものについてのみその原因を聞いている。

ヒヤリ・ハットの経験は、「時々」と「頻繁」のグループをあわせると、145 名(67.7%)であった。その原因として最も多く思い当たるものを聞いたところ、93 名(65%)が「歩行者・対向車」を、38 名(26.6%)が「自分自身」を挙げた。前回と比較すると、原因が「自分自身」にあるとしたものの割合がやや多いが、実数が少なくその差は明確ではない。

一方、交通事故の経験(表 5-2)について、複数回あると回答したものはわずかに 11 名であった。ただし、一回の経験を持つものは 53 名(24.8%)あった。これらのデータは、前回調査とほぼ同水準である。

乗務中の強い眠気や居眠りの経験につい

表6 タクシー禁煙化(2008年1月)以降の状況

	いいえ	はい	合計
(自社のタクシーは)以前から禁煙	184(86.0%)	30(14.0%)	214(100.0%)
(自社のタクシーは)今回禁煙化	33(15.3%)	182(84.7%)	215(100.0%)
禁煙化以降:タバコ本数減少	125(58.4%)	89(41.6%)	214(100.0%)
禁煙化以降:タバコ本数増加	212(99.1%)	2(0.9%)	214(100.0%)
禁煙化以降:禁煙で仕事がつらい	199(92.6%)	16(7.4%)	215(100.0%)
禁煙化以降:業務が快適	128(59.5%)	87(40.5%)	215(100.0%)
禁煙化以降:体調が良好	184(85.6%)	31(14.4%)	215(100.0%)
禁煙化以降:体調が悪化	215(100.0%)	0(0.0%)	215(100.0%)
禁煙化以降:お客とのトラブル増加	206(95.8%)	9(4.2%)	215(100.0%)
禁煙化以降:お客とのトラブル減少	205(95.3%)	10(4.7%)	215(100.0%)
禁煙化以降:お客が増加	213(99.5%)	1(0.5%)	214(100.0%)
禁煙化以降:お客が減少	138(64.2%)	77(35.8%)	215(100.0%)

て（表 5-3）は、68 名（31.6%）が「月一回以上（時々）」と答えており、「週一回以上」と頻繁に経験しているものも、14 名（6.5%）あった。これらについても、前回調査とほぼ同じ結果であった。

タクシー禁煙化の影響 2008 年 1 月に実施された、タクシー禁煙化に伴う仕事や体調への影響を聞いた（表 6）。

182 名（84.7%）と、大多数が今回の法律をきっかけに自社のタクシーが禁煙化されたと回答している。この結果、全般的には、タバコの本数が減り（89 名、41.6%）、業務も快適（87 名、40.5%）との回答が多かった。巷間言われるほどに、禁煙化をきっかけとした客とのトラブルはないようだが、お客が減少したとの回答は 77 名（35.8%）に達した。

3. 3. 生活習慣

勤務中の食事など 勤務中の食事については、前回調査と比較しても明らかな差は認められず、栄養のバランスを考えて食事をとるもの、うどんなど軽食で済ませるの割合はほぼ同じであった。

間食については前回に続いて今回の結果でも、「しない」と答えたものの割合が増えている（2006 年 35.7%、2007 年 45.4%、2008 年 51.8%）。

その他の生活習慣 勤務中の缶コーヒー類の飲用や、食事の味付け、運動習慣、飲酒などその他の生活習慣に関しては、前回調査との比較でその分布に明らかな差は認められなかった。

喫煙に関しては、喫煙者の割合が 113 名

（54.3%）とベースライン、前回調査に比べて少なくなっている。ただし、「もともと吸わない」と回答しているものの割合が 19.2%とこれまでに比べて多いことから、非喫煙者が増えたというよりも、今回の解析対象者が、タバコをもともと吸わないような生活習慣に関する意識の高い集団に偏ったと解釈すべきと考えられる。

3. 4. 健康状態

身体的特徴とメタボリック症候群 身長、体重などの身体的特徴に、一年前との差は認められなかった。また、自己報告をもとに判断したメタボリック症候群ではあるが、その割合についても明らかな差は認められなかった

メタボリック症候群の診断基準項目を個別に見ると、「血圧が高い」と答えたものがベースライン比で 8 ポイント、前回比で 2 ポイント増加した程度で、他の項目についてはいずれも明らかな変化が認められなかった。

自覚症状 表 7 に普段ある自覚症状を示す。最も多く認められたのは「目のかすみ・疲れ」（51.6%）で、「肩・腕・首筋の凝りや痛み」（48.1%）、「腰痛」（41.6%）と続く。前回調査との比較では、訴え率に明らかな変化は認められず、いずれの項目についても最大で 2~3 ポイント程度の差しか認められなかった。

重大な疾病の既往と持病 重大な疾病として心筋梗塞等の心臓疾患、脳出血などの脳血管疾患、がんの既往を聞いている。今回、それぞれ 11 名、4 名、10 名が既往ありと回答している。

一方、医師から診断された持病は、「ある」と答えたものが 83 名 (42.3%) で、ベースライン、前回調査との比で、明らかな差は認められない。ただし、診断名ごとに見ると (表 8)、「高血圧」が 38 名 (45.8%)、「糖尿病」18 名 (21.7%) が相対的に多く、いずれもベースライン、前回調査比で割合が大きくなっている。

自覚症状と持病の悪化 自覚症状と持病に

については、過去一年間に悪化がみられたかどうかについても聞いている。

自覚症状のうち、「目のかすみ・つかれ (45 名、20.4%)」、「腰痛 (41 名、18.6%)」、「肩・腕・首筋のこりや痛み (39 名、17.6%)」、「視力低下 (24 名、10.9%)」の各症状で「悪化した」との回答が 10%を超えた。

持病については、「腰痛・椎間板ヘルニア」で「悪化した」と回答したものが 8 名 (3.6%)

表7 普段の症状(複数回答)

	回答者数(%)	
動悸・息切れ	32	(15.0%)
胸の痛み・不整脈	22	(10.3%)
歯・歯ぐきの痛みや出血	48	(22.4%)
吐き気・むかつき・胃の痛み	25	(11.7%)
下痢・便秘・腹痛	45	(21.0%)
咳・息苦しさ	16	(7.5%)
喉の痛み	14	(6.5%)
目のかすみ・疲れ	110	(51.6%)
めまい・耳鳴り	21	(9.8%)
手足の痙攣・痺れ	13	(6.1%)
肩・腕・首筋の凝りや痛み	103	(48.1%)
腰痛	89	(41.6%)
皮膚の痒み・湿疹	52	(24.3%)
頻尿・残尿感	40	(18.7%)
頭痛	20	(9.3%)
身体の脱力感・だるさ	39	(18.2%)
不眠	16	(7.5%)
視力低下	61	(28.5%)
食欲不振	5	(2.3%)
その他	1	(0.5%)
症状なし	17	(7.9%)

*全回答者数213名

表8 医師から診断された持病 疾患別分布

	回答者数(%)
胃腸病	5 (6.0%)
高血圧	38 (45.8%)
神経痛・リュウマチ	1 (1.2%)
肝臓病	3 (3.6%)
腎臓病	2 (2.4%)
心臓病	6 (7.2%)
糖尿病	18 (21.7%)
喘息	4 (4.8%)
歯周病	13 (15.7%)
精神科の病気	1 (1.2%)
腰痛・椎間板ヘルニア	13 (15.7%)
痛風	8 (9.6%)
その他	15 (18.1%)

*医師から診断された持病が「ある」と回答したものの
83名中の分布(複数回答)

と最も多く、「糖尿病」と「歯周病」がそれぞれ5名（2.3%）で続いたが、その他の疾病で悪化を訴えたものは3名以下であった。

これら自覚症状と持病の悪化については、前回調査との比較で同じ疾病、同じ自覚症状で、同程度の訴え率であった。

病欠回数と病欠日数 過去一年間の病欠の経験を聞いたところ、「病欠あり」と回答したものは48名（23.2%）で、前回調査に比べて約6ポイント低下した。このうち33名（69%）は病欠回数3回以下であったが、病欠日数で見ると、7日以下66%、14日以下75%、20日以下84%で、30日以上のもも6名（14%）いた。病欠回数がもっとも多かったものは60回、病欠日数が最も多かったものは365日（一年間）に達した。

前回調査と比較すると、平均値では今回のほうが病欠回数が多く、病欠日数も長くなっていたが、これは一部の長期療養者のためと考えられ、分布としては病欠回数は少なく、病欠日数は短くなる傾向にあった。

3. 5. 睡眠と疲労

最近一週間の平日の睡眠時間 睡眠時間については過去一週間に限り、平日の平均的な睡眠時間を聞いている。ベースライン、前回調査との比で、睡眠時間の分布に明らかな差は認められなかった。

Epworth 眠気尺度 日中の眠気について、Epworth 眠気尺度を用いて聞いた。表9に項目別の回答の分布を示す。

合計得点による評価では、195名（92.4%）が正常（10点以下）、13名（6.2%）が軽度異常（11点以上）、3名（3.0%）が異常（15点以上）と判定された。ベースライン、前回調査との比較では、11点以上のものの割合が少なくなっている。なお、合計得点の平均値は5.0点、標準偏差は3.5点であった。

心身の疲労 厚生労働省による労働者健康状況調査と同じ質問を用いて、身体および神経の疲労について聞いている。前回調査では、身体の疲れ、神経の疲れともにベー

表9 Epworth眠気尺度項目別の回答分布

	うたた寝したり寝入ったりすることがあるか			
	ない	たまに	時々	よくある
座って本を読んでいる時	96(55.2%)	56(32.2%)	15(8.6%)	7(4.0%)
テレビを見ている時	39(19.6%)	95(47.7%)	43(21.6%)	22(11.1%)
公共の場所でただ座っている時	80(48.5%)	60(36.4%)	18(10.9%)	7(4.2%)
1時間車に同乗者で乗っている時	107(60.8%)	48(27.3%)	19(10.8%)	2(1.1%)
午後横になっている時	27(13.8%)	84(42.9%)	58(29.6%)	27(13.8%)
座って誰かと会話している時	159(93.5%)	10(5.9%)	(0.0%)	1(0.6%)
昼食後、静かに座っている時	74(40.4%)	77(42.1%)	21(11.5%)	11(6.0%)
渋滞で数分間とまっている時	136(79.1%)	32(18.6%)	4(2.3%)	(0.0%)

スラインとの比較で改善傾向が認められたが、今回また、身体の疲れ、神経の疲れともに「疲れる」と回答したものの割合が大きくなっている。身体の疲れでは「とても疲れる」と「やや疲れる」の合計が 85.7%、神経の疲れのそれは 84.2%であった。前回調査では、神経の疲れに関して「とても疲れる」と回答したものの割合が、ベースライン調査から大きく減少していたが、今回そのような変化は認められなかった。

疲れの持ち越し 慢性的な疲労あるいは疲労の持続状況を知る目的で、「仕事や仕事以外の疲れを、翌日に持ちこすことがあるか」を聞いている。「よくある」、「いつも持ちこしている」と回答したものの割合の合計は、ベースラインで 13.1%、前回調査が 12.5%、今回が 10.6%と漸減傾向であった。

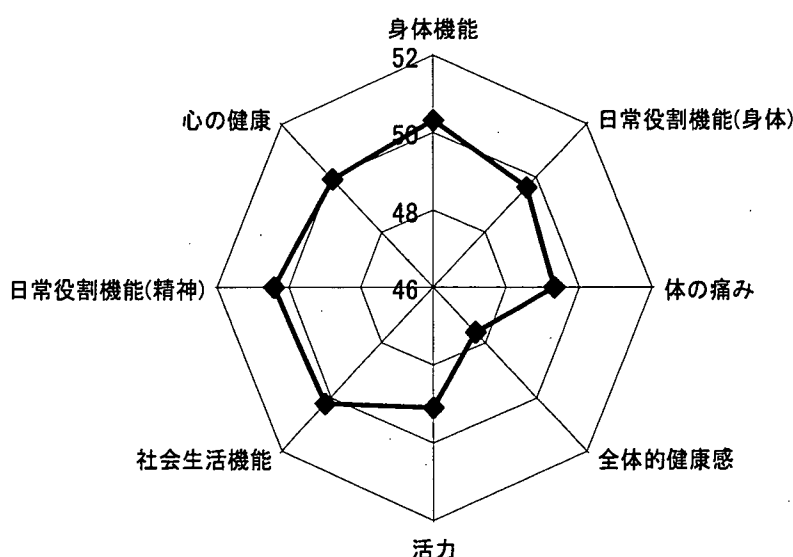
3. 6. 健康関連 QOL

SF-36 健康関連 QOL SF-36 を用いて評価している。評価軸ごとの、標準得点の平均値を図（レーダーチャート）に示す。

これまでの調査では、すべての評価軸で、標準得点の平均値は 50 ポイント未満であったが、今回は身体機能、社会生活機能と日常役割機能（精神）の各評価軸で、50 ポイントを超えた。

一年前と比較した現在の健康状態 SF-36 の中に、一年前と比較した現在の健康状態を聞く質問がある。結果を表 10 に示す。今回、この質問に対して「よくない」、「はるかに悪い」と回答したものは 46 名（21%）で、前回調査の 28.4%を 7 ポイント以上下回った。

図 健康関連QOLの標準得点



働き方の変化との関連 過去一年間の働き方の変化と、健康関連 QOL の関連を検討した結果を表 11 と表 12 に示す。

今回の調査では、働き方の変化を 2007 年 12 月のタクシー運賃改訂の前後で分けて考えている。表 11-1 から 11-11 が運賃改定前、表 12-1 から 12-11 が改定後である。

前回調査の結果からは、実車距離や実車時間が増えても減っても健康関連 QOL がよくないという結果が認められた。

今回の調査では、運賃改定前までをみると実車に関しては時間、距離、回数のいずれについても「減った」とする群で標準得点が低くなっていた。また走行距離や客待ち時間、車を流す時間については、「増えた」、「減った」と答えたいずれの群についても「変わらない」と答えた群に比べて標準得点が低い傾向が認められた。

運賃改定後では実車に関して「増えた」とする回答が少なく、安定した結果が得られていない。ただし、「減った」群については、明らかに「変わらない」群に比べて QOL の標準得点が低いといえそう。なお、走行距離や客待ち時間、車を流す時間については、運賃改定前と同様、増えても減って

も QOL が悪い傾向が認められた。

また、運賃改定の前後に限らず、ノルマの達成については、「達成できることが減った」と答えた群の標準得点が、「変わらない」と答えた群に比べてかなり悪くなっていることがわかる。

表10 1年前と比較した現在の健康状態

	回答者数 (%)
はるかに良い	3 (1.4%)
やや良い	9 (4.1%)
ほぼ同じ	161 (73.5%)
良くない	40 (18.3%)
はるかに悪い	6 (2.7%)

表11 働き方の変化と健康関連QOL: 前回調査(2007年2~3月)から料金改定(2007年12月)の間

11-1 変化:実車時間

	増えた		減った		変わらない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	9	50.0±7.7	68	49.4±7.9	131	50.9±7.7	208	50.4±7.7	0.424
日常役割機能(身体)	9	47.2±16.1	68	47.8±11.7	131	50.8±9.3	208	49.7±10.5	0.130
体の痛み	9	49.7±10.5	66	47.5±10.1	132	49.9±9.4	207	49.1±9.7	0.263
全体的健康感	8	50.8±10.4	66	46.3±9.9	131	48.0±9.4	205	47.5±9.6	0.318
活力	9	47.5±6.8	66	47.5±11.4	132	50.2±9.1	207	49.2±9.8	0.169
社会生活機能	9	49.1±10.8	66	48.1±11.2	132	51.6±9.1	207	50.4±10.0	0.067
日常役割機能(精神)	9	48.5±13.0	68	48.1±11.6	131	51.6±8.9	208	50.3±10.2	0.066
心の健康	9	51.5±6.7	66	47.5±9.8	132	51.1±8.2	207	50.0±8.8	0.022 *

11-2 変化:実車距離

	増えた		減った		変わらない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	10	51.3±6.5	72	49.0±8.5	125	51.1±7.3	207	50.4±7.8	0.184
日常役割機能(身体)	10	51.1±15.0	72	46.9±12.0	125	51.1±8.9	207	49.6±10.5	0.025 *
体の痛み	10	50.4±9.3	71	47.2±10.2	125	50.1±9.3	206	49.1±9.7	0.115
全体的健康感	8	50.4±11.0	72	45.9±10.5	124	48.3±9.0	204	47.5±9.7	0.179
活力	10	49.6±6.1	71	47.0±11.5	125	50.3±8.7	206	49.1±9.8	0.066
社会生活機能	10	51.2±10.5	71	47.6±11.2	125	51.9±8.9	206	50.4±10.0	0.013 *
日常役割機能(精神)	10	51.0±11.9	72	46.9±12.0	125	52.1±8.4	207	50.3±10.2	0.002 **
心の健康	10	52.0±7.1	71	47.2±10.0	125	51.3±7.9	206	49.9±8.8	0.006 **

11-3 変化:実車回数

	増えた		減った		変わらない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	6	46.9±7.9	81	50.2±7.7	120	50.7±7.8	207	50.4±7.7	0.476
日常役割機能(身体)	6	44.3±12.0	81	48.4±11.2	120	50.9±9.8	207	49.7±10.5	0.117
体の痛み	6	58.2±5.3	79	47.7±9.8	121	49.7±9.5	206	49.2±9.7	0.024 *
全体的健康感	6	50.1±9.0	79	46.8±10.5	119	47.9±9.1	204	47.6±9.6	0.601
活力	6	51.3±5.0	79	47.3±11.1	121	50.5±8.8	206	49.3±9.8	0.065
社会生活機能	6	52.7±5.4	79	48.8±10.6	121	51.4±9.6	206	50.4±9.9	0.162
日常役割機能(精神)	6	50.2±7.5	81	48.2±11.5	120	51.9±8.9	207	50.4±10.1	0.040 *
心の健康	6	52.2±6.6	79	47.6±9.7	121	51.5±8.0	206	50.0±8.8	0.008 **

11-4 変化: 走行距離

	増えた		減った		変わらない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	28	50.2±6.7	57	48.2±8.4	123	51.4±7.5	208	50.4±7.7	0.036 *
日常役割機能(身体)	28	47.7±12.3	57	46.8±12.0	123	51.4±9.0	208	49.7±10.5	0.013 *
体の痛み	28	48.4±8.9	55	47.6±10.5	124	49.9±9.5	207	49.1±9.7	0.303
全体的健康感	27	46.3±12.0	57	45.7±9.8	121	48.7±8.8	205	47.5±9.6	0.123
活力	28	46.2±8.9	55	47.8±11.8	124	50.5±8.8	207	49.2±9.8	0.053
社会生活機能	28	46.8±11.2	55	47.9±11.8	124	52.3±8.3	207	50.4±10.0	0.003 **
日常役割機能(精神)	28	47.8±10.0	57	47.5±12.3	123	52.2±8.6	208	50.3±10.2	0.005 **
心の健康	28	46.5±9.9	55	49.2±9.8	124	51.2±7.9	207	50.0±8.8	0.027 *

11-5 変化: 客待ち時間

	増えた		減った		変わらない		ない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	85	48.9±8.1	10	47.0±7.6	105	51.8±7.3	8	52.1±6.4	208	50.4±7.7	0.030 *
日常役割機能(身体)	85	47.0±12.3	10	51.1±9.3	105	52.0±8.1	8	48.6±14.0	208	49.8±10.5	0.012 *
体の痛み	85	47.9±9.9	10	48.8±10.0	105	50.3±9.2	7	50.7±12.9	207	49.2±9.7	0.374
全体的健康感	83	46.5±10.7	10	45.5±9.2	104	48.7±8.8	8	47.3±7.1	205	47.6±9.6	0.417
活力	85	47.2±10.4	10	46.2±10.2	105	51.1±8.7	7	51.1±11.6	207	49.3±9.7	0.036 *
社会生活機能	85	48.4±11.2	10	49.9±9.5	105	52.3±8.0	7	45.8±16.0	207	50.4±9.9	0.030 *
日常役割機能(精神)	85	47.8±11.8	10	51.0±7.8	105	52.6±7.9	8	49.7±13.4	208	50.4±10.1	0.014 *
心の健康	85	48.3±9.3	10	49.1±8.4	105	51.4±8.4	7	52.9±7.2	207	50.1±8.8	0.076

11-6 変化: 車を流す時間

	増えた		減った		変わらない		ない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	77	48.0±8.1	20	51.6±6.0	104	51.7±7.5	7	52.6±6.0	208	50.4±7.7	0.007 **
日常役割機能(身体)	77	47.5±12.6	20	45.3±9.6	104	51.9±8.6	7	51.4±4.3	208	49.7±10.5	0.008 **
体の痛み	76	47.6±10.2	20	49.0±9.4	105	50.4±9.5	6	48.3±7.3	207	49.2±9.7	0.299
全体的健康感	74	46.3±11.0	19	47.9±9.5	106	48.6±8.5	6	42.9±9.9	205	47.5±9.6	0.284
活力	76	46.8±10.2	20	49.0±11.0	105	51.0±8.9	6	45.1±9.5	207	49.1±9.8	0.029 *
社会生活機能	76	47.6±12.0	20	49.9±8.5	105	52.6±8.2	6	47.2±6.9	207	50.3±10.0	0.007 **
日常役割機能(精神)	77	48.3±11.2	20	48.3±10.2	104	52.2±9.3	7	50.5±6.4	208	50.3±10.2	0.058
心の健康	76	47.9±9.6	20	49.2±7.6	105	51.7±8.1	6	47.8±9.0	207	50.0±8.8	0.033 *

11-7 変化: 休憩時間

	増えた		減った		変わらない		ない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	10	46.4±10.0	30	48.3±7.5	166	50.9±7.6	3	51.6±6.1	209	50.4±7.7	0.130
日常役割機能(身体)	10	46.7±11.5	30	44.0±15.0	166	50.8±9.2	3	56.2±0.0	209	49.7±10.5	0.005 **
体の痛み	10	44.7±10.5	30	46.7±10.1	165	49.8±9.5	3	57.3±7.2	208	49.2±9.7	0.075
全体的健康感	10	45.5±12.6	30	45.2±9.4	163	48.0±9.5	3	52.5±4.1	206	47.5±9.6	0.327
活力	10	42.9±13.1	30	46.1±10.3	165	50.1±9.3	3	50.2±13.4	208	49.2±9.8	0.035 *
社会生活機能	10	49.9±16.2	30	46.8±11.0	165	51.0±9.2	3	52.7±7.6	208	50.3±9.9	0.200
日常役割機能(精神)	10	49.8±9.9	30	43.7±12.7	166	51.5±9.3	3	56.6±0.0	209	50.3±10.1	0.001 ***
心の健康	10	47.0±8.7	30	48.0±9.4	165	50.5±8.7	3	55.3±6.7	208	50.0±8.8	0.225

11-8 変化:仮眠時間

	増えた		減った		変わらない		ない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	3	41.4±8.9	16	48.8±7.8	104	50.4±8.0	86	50.9±7.2	209	50.4±7.7	0.162
日常役割機能(身体)	3	46.0±10.2	16	45.6±13.9	104	49.9±10.3	86	50.3±10.0	209	49.7±10.5	0.368
体の痛み	3	40.3±12.3	16	46.0±8.6	103	49.6±10.0	86	49.6±9.3	208	49.2±9.7	0.210
全体的健康感	3	40.1±6.0	16	45.0±8.8	105	48.3±9.4	82	47.4±10.0	206	47.5±9.6	0.321
活力	3	37.9±13.4	16	43.3±9.6	103	49.7±8.8	86	50.0±10.4	208	49.2±9.8	0.013 *
社会生活機能	3	48.3±10.0	16	44.4±13.9	103	51.5±8.6	86	50.1±10.4	208	50.3±9.9	0.062
日常役割機能(精神)	3	48.1±8.5	16	44.9±11.0	104	51.3±9.8	86	50.2±10.3	209	50.3±10.1	0.121
心の健康	3	50.9±8.1	16	46.0±7.8	103	50.7±8.1	86	49.9±9.6	208	50.0±8.8	0.253

11-9 変化:休日勤務回数

	増えた		減った		変わらない		ない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	7	44.1±10.0	6	50.4±10.4	125	49.9±7.2	71	51.8±7.9	209	50.4±7.7	0.059
日常役割機能(身体)	7	38.7±16.5	6	38.6±11.5	125	50.1±9.7	71	50.9±10.2	209	49.7±10.5	0.001 **
体の痛み	7	44.6±10.3	6	47.3±8.6	124	49.5±10.1	71	49.2±9.1	208	49.2±9.7	0.589
全体的健康感	7	42.9±8.2	6	48.1±10.9	123	47.8±9.3	70	47.5±10.3	206	47.5±9.6	0.619
活力	7	44.5±9.6	6	50.2±7.8	124	49.5±9.8	71	49.1±9.9	208	49.2±9.8	0.629
社会生活機能	7	39.2±13.0	6	48.3±11.5	124	50.6±10.4	71	51.2±8.0	208	50.3±9.9	0.022 *
日常役割機能(精神)	7	41.4±12.7	6	43.8±8.9	125	50.8±9.2	71	51.0±11.1	209	50.3±10.1	0.036 *
心の健康	7	46.8±9.4	6	47.8±10.7	124	50.5±8.4	71	49.6±9.4	208	50.0±8.8	0.607

11-10 変化:ノルマ

	増えた		減った		変わらない		ない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	7	49.1±7.2	2	49.9±12.4	136	49.8±7.7	63	51.7±7.7	208	50.3±7.7	0.434
日常役割機能(身体)	7	47.5±11.8	2	46.0±14.5	136	49.4±10.1	63	50.6±11.4	208	49.7±10.5	0.782
体の痛み	7	44.6±14.5	2	53.0±11.9	136	48.8±9.5	63	50.5±9.4	208	49.2±9.7	0.354
全体的健康感	6	46.6±12.6	2	47.0±10.3	134	46.9±9.7	63	49.0±9.2	205	47.6±9.6	0.581
活力	7	41.9±14.1	2	53.3±13.1	136	48.7±9.2	63	51.0±10.2	208	49.2±9.8	0.080
社会生活機能	7	50.5±9.3	2	43.9±18.6	136	49.9±10.7	63	51.4±8.0	208	50.3±9.9	0.639
日常役割機能(精神)	7	52.9±9.6	2	45.9±15.0	136	50.0±9.9	63	50.9±10.8	208	50.3±10.2	0.757
心の健康	7	48.7±12.4	2	47.8±16.9	136	49.8±8.6	63	50.8±8.8	208	50.0±8.8	0.846

11-11 変化:ノルマ達成

	増えた		減った		変わらない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	3	49.3±13.3	31	47.4±8.9	74	50.5±7.3	108	49.6±8.0	0.211
日常役割機能(身体)	3	48.3±13.8	31	45.2±10.7	74	50.8±10.9	108	49.1±11.1	0.065
体の痛み	3	43.3±9.9	31	45.1±11.3	74	49.5±8.9	108	48.1±9.8	0.078
全体的健康感	2	44.3±18.0	31	42.9±8.4	70	46.9±10.3	103	45.7±10.0	0.165
活力	3	48.2±4.7	31	43.3±11.0	74	49.2±8.7	108	47.5±9.6	0.014 *
社会生活機能	3	48.3±10.0	31	43.3±13.9	74	52.2±7.9	108	49.5±10.7	0.000 ***
日常役割機能(精神)	3	49.5±6.5	31	45.5±12.2	74	51.3±10.2	108	49.6±11.0	0.042 *
心の健康	3	45.6±5.5	31	44.5±9.3	74	50.9±9.2	108	48.9±9.6	0.005 **

表12 働き方の変化と健康関連QOL:料金改定(2007年12月)から今回調査(2008年2月)の間

12-1 変化:実車時間

	増えた		減った		変わらない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	4	43.7±10.1	##	49.6±8.2	101	51.9±6.2	207	50.6±7.4	0.014 *
日常役割機能(身体)	4	45.2±10.9	##	47.6±12.1	101	52.3±7.5	207	49.8±10.3	0.003 **
体の痛み	4	58.3±6.2	##	47.8±10.2	102	50.5±8.8	206	49.3±9.6	0.021 *
全体的健康感	4	52.7±9.7	##	46.5±9.6	100	48.7±9.1	204	47.7±9.4	0.134
活力	4	47.9±2.9	##	47.8±10.4	102	50.8±8.9	206	49.3±9.7	0.077
社会生活機能	4	52.2±6.3	##	48.3±10.8	102	52.3±8.8	206	50.4±9.9	0.014 *
日常役割機能(精神)	4	48.1±10.4	##	47.6±11.8	101	53.4±6.5	207	50.5±9.9	0.000 ***
心の健康	4	50.4±4.6	##	47.5±9.5	102	52.7±6.9	206	50.1±8.6	0.000 ***

12-2 変化:実車距離

	増えた		減った		変わらない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	5	49.5±9.8	##	49.8±8.2	95	51.5±6.4	205	50.6±7.4	0.263
日常役割機能(身体)	5	51.5±8.9	##	47.2±11.9	95	52.4±7.5	205	49.7±10.4	0.002 **
体の痛み	5	56.1±5.3	##	47.5±10.0	96	51.0±8.6	204	49.4±9.5	0.008 **
全体的健康感	4	54.0±9.9	##	46.3±9.6	93	48.9±9.1	202	47.7±9.4	0.064
活力	5	50.2±4.9	##	47.6±10.5	96	51.1±8.7	204	49.3±9.7	0.035 *
社会生活機能	5	54.5±3.6	##	48.2±10.8	96	52.4±8.8	204	50.4±10.0	0.007 **
日常役割機能(精神)	5	50.6±9.3	##	47.4±11.8	95	53.7±6.0	205	50.4±10.0	0.000 ***
心の健康	5	51.8±6.5	##	47.7±9.1	96	52.5±7.4	204	50.1±8.6	0.000 ***

12-3 変化:実車回数

	増えた		減った		変わらない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	5	45.3±7.6	##	50.3±7.9	83	51.4±6.7	204	50.6±7.4	0.170
日常役割機能(身体)	5	43.3±8.8	##	48.5±11.2	83	52.0±8.6	204	49.8±10.3	0.023 *
体の痛み	5	54.3±7.2	##	48.1±10.2	84	50.8±8.5	203	49.4±9.6	0.078
全体的健康感	5	50.1±11.8	##	46.8±9.1	81	48.9±9.7	201	47.7±9.4	0.274
活力	5	44.1±3.8	##	48.0±9.9	84	51.7±9.2	203	49.4±9.7	0.011 *
社会生活機能	5	49.2±10.8	##	48.9±10.6	84	52.7±8.6	203	50.5±10.0	0.027 *
日常役割機能(精神)	5	46.4±7.7	##	48.6±11.2	83	53.4±7.0	204	50.5±9.9	0.002 **
心の健康	5	47.5±6.1	##	48.3±8.9	84	52.8±7.6	203	50.1±8.6	0.001 ***

12-4 変化: 走行距離

	増えた		減った		変わらない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	30	48.1±10.1	69	49.1±7.4	106	52.2±6.2	205	50.6±7.4	0.003 **
日常役割機能(身体)	30	47.3±12.4	69	46.8±11.9	106	52.5±7.6	205	49.8±10.3	0.000 ***
体の痛み	30	47.7±10.0	68	48.0±10.5	106	50.5±8.7	204	49.2±9.6	0.171
全体的健康感	29	46.4±12.1	70	46.1±9.0	104	49.1±8.7	203	47.7±9.4	0.077
活力	30	46.2±8.4	68	48.1±11.2	106	50.9±8.8	204	49.3±9.7	0.029 *
社会生活機能	30	49.0±10.3	68	47.9±11.4	106	52.3±8.5	204	50.4±10.0	0.012 *
日常役割機能(精神)	30	47.2±11.3	69	47.3±11.9	106	53.4±6.8	205	50.4±10.0	0.000 ***
心の健康	30	46.6±9.8	68	48.8±9.2	106	51.9±7.4	204	50.1±8.6	0.003 **

12-5 変化: 客待ち時間

	増えた		減った		変わらない		ない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	94	49.4±7.4	12	45.2±13.6	89	52.4±5.8	10	52.7±6.0	205	50.6±7.4	0.001 **
日常役割機能(身体)	94	48.2±10.9	12	44.0±16.5	89	52.5±7.5	10	48.7±12.7	205	49.8±10.3	0.005 **
体の痛み	95	47.9±10.0	12	46.3±11.8	88	51.2±8.3	9	50.0±11.7	204	49.3±9.6	0.077
全体的健康感	92	46.5±9.5	12	46.2±11.8	89	49.2±9.1	9	48.4±7.4	202	47.7±9.4	0.267
活力	95	47.4±10.0	12	51.5±8.6	88	50.9±9.0	9	53.0±10.8	204	49.4±9.7	0.042 *
社会生活機能	95	49.0±10.5	12	50.0±9.5	88	52.3±8.6	9	48.3±14.7	204	50.5±9.9	0.135
日常役割機能(精神)	94	48.6±10.8	12	45.2±15.3	89	53.3±6.5	10	50.6±12.1	205	50.5±9.9	0.002 **
心の健康	95	48.4±8.7	12	48.9±9.9	88	51.8±8.2	9	53.8±6.6	204	50.1±8.6	0.031 *

12-6 変化: 車を流す時間

	増えた		減った		変わらない		ない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	92	48.8±7.6	17	52.2±6.0	87	52.1±7.3	9	51.2±6.0	205	50.6±7.4	0.020 *
日常役割機能(身体)	92	48.3±10.9	17	46.0±9.3	87	51.7±10.0	9	52.1±4.4	205	49.7±10.4	0.058
体の痛み	91	47.6±9.5	17	50.4±7.8	88	50.9±10.0	8	48.0±7.3	204	49.3±9.6	0.123
全体的健康感	89	46.7±9.5	16	49.8±10.8	89	48.7±9.1	8	44.0±8.6	202	47.7±9.4	0.267
活力	91	47.6±9.4	17	51.1±10.5	88	51.1±9.6	8	44.9±10.8	204	49.3±9.7	0.041 *
社会生活機能	91	48.5±11.5	17	49.7±8.3	88	52.7±8.4	8	47.2±6.1	204	50.4±10.0	0.031 *
日常役割機能(精神)	92	49.2±9.9	17	45.6±12.8	87	52.4±9.4	9	52.8±5.4	205	50.4±10.0	0.023 *
心の健康	91	48.4±8.6	17	49.4±9.2	88	51.9±8.2	8	49.8±9.2	204	50.1±8.6	0.061

12-7 変化: 休憩時間

	増えた		減った		変わらない		ない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	8	47.4±7.2	32	47.7±7.9	161	51.4±7.2	4	48.1±8.1	205	50.6±7.4	0.031 *
日常役割機能(身体)	8	51.1±6.3	32	47.6±10.0	161	50.1±10.5	4	49.4±13.6	205	49.7±10.4	0.641
体の痛み	8	48.7±9.5	32	48.6±8.9	160	49.4±9.8	4	50.1±8.7	204	49.3±9.6	0.966
全体的健康感	8	47.8±8.2	33	46.5±9.1	157	47.9±9.7	4	48.6±7.1	202	47.7±9.4	0.882
活力	8	49.1±9.9	32	45.9±9.4	160	50.1±9.7	4	49.5±11.1	204	49.4±9.7	0.182
社会生活機能	8	54.6±3.4	32	48.7±10.9	160	50.6±9.9	4	50.5±13.2	204	50.4±10.0	0.489
日常役割機能(精神)	8	53.9±5.0	32	47.9±8.3	161	50.7±10.3	4	50.2±12.8	205	50.4±10.0	0.373
心の健康	8	49.8±8.0	32	47.9±8.5	160	50.5±8.6	4	51.8±10.4	204	50.1±8.6	0.463

12-8 変化:仮眠時間

	増えた		減った		変わらない		ない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	4	42.2±7.4	15	49.0±7.3	99	50.5±7.9	85	51.5±6.3	203	50.6±7.3	0.061
日常役割機能(身体)	4	48.6±9.8	15	46.2±11.3	99	50.1±9.8	85	50.3±10.7	203	49.9±10.3	0.541
体の痛み	4	45.6±14.6	14	48.5±7.4	99	49.0±10.3	85	49.9±9.0	202	49.3±9.6	0.764
全体的健康感	4	45.6±12.2	15	45.8±8.1	100	48.2±9.6	81	47.6±9.4	200	47.7±9.4	0.769
活力	4	44.1±16.5	14	43.0±6.7	99	49.7±9.1	85	50.4±10.2	202	49.4±9.7	0.042 *
社会生活機能	4	50.5±9.3	14	45.4±14.4	99	51.0±8.9	85	50.4±10.4	202	50.4±10.0	0.273
日常役割機能(精神)	4	50.2±8.1	15	45.8±8.9	99	51.5±9.3	85	50.2±10.8	203	50.5±10.0	0.230
心の健康	4	53.1±8.0	14	44.7±8.8	99	50.6±7.9	85	50.4±9.2	202	50.2±8.6	0.096

12-9 変化:休日勤務回数

	増えた		減った		変わらない		ない		合計		ANOVA
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	p値
身体機能	5	50.2±9.2	4	47.2±11.6	125	50.1±7.3	71	51.7±7.3	205	50.6±7.4	0.426
日常役割機能(身体)	5	48.1±9.8	4	43.5±11.3	125	49.2±10.8	71	51.2±9.5	205	49.7±10.4	0.320
体の痛み	5	48.2±9.5	4	47.6±10.9	123	49.4±10.1	72	49.0±8.6	204	49.2±9.6	0.971
全体的健康感	5	45.8±8.2	4	45.6±13.2	122	47.8±9.4	71	47.9±9.3	202	47.8±9.4	0.929
活力	5	49.0±8.3	4	51.8±9.6	123	49.4±10.0	72	49.0±9.5	204	49.3±9.7	0.950
社会生活機能	5	47.9±13.6	4	45.6±13.6	123	50.3±10.7	72	50.9±8.2	204	50.4±10.0	0.702
日常役割機能(精神)	5	47.2±10.6	4	47.0±9.4	125	50.1±9.8	71	51.4±10.4	205	50.4±10.0	0.631
心の健康	5	49.1±10.5	4	49.8±13.3	123	50.3±8.3	72	49.8±8.9	204	50.1±8.6	0.977

12-10 変化:ノルマ

	増えた		減った		変わらない		ない		合計		ANOVA
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	p値
身体機能	5	42.5±1.9	5	46.7±12.1	128	50.7±6.9	64	51.5±7.6	202	50.7±7.3	0.034 *
日常役割機能(身体)	5	44.6±11.7	5	46.0±9.6	128	50.0±9.7	64	50.1±11.5	202	49.8±10.3	0.567
体の痛み	5	48.1±9.4	5	42.6±12.9	128	49.0±9.7	63	50.8±9.1	201	49.4±9.6	0.235
全体的健康感	5	44.2±7.3	5	44.7±9.8	124	47.5±9.7	64	48.8±9.0	198	47.8±9.4	0.534
活力	5	45.3±3.5	5	46.6±11.2	128	48.9±9.7	63	50.7±10.1	201	49.3±9.8	0.425
社会生活機能	5	43.9±12.3	5	40.0±15.8	128	50.7±10.2	63	51.0±8.4	201	50.4±10.0	0.047 *
日常役割機能(精神)	5	48.1±10.8	5	48.9±10.6	128	50.6±9.5	64	50.3±11.0	202	50.4±10.0	0.929
心の健康	5	50.7±6.9	5	45.9±10.4	128	50.1±8.6	63	50.5±8.7	201	50.1±8.6	0.722

12-11 変化:ノルマ達成

	増えた		減った		変わらない		合計		ANOVA p値
	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	N	M±SD	
身体機能	3	52.8±10.2	32	47.4±9.2	70	51.1±6.2	105	50.0±7.4	0.048 *
日常役割機能(身体)	3	48.3±11.0	32	45.4±10.5	70	52.4±8.4	105	50.1±9.6	0.002 **
体の痛み	3	49.6±4.9	32	46.2±10.2	70	49.1±9.6	105	48.2±9.7	0.378
全体的健康感	3	51.2±7.8	32	43.6±8.2	66	47.3±10.1	101	46.3±9.6	0.135
活力	3	48.2±6.4	32	44.4±9.6	70	49.6±9.3	105	48.0±9.6	0.037 *
社会生活機能	3	43.9±11.4	32	44.1±13.7	70	52.6±7.9	105	49.8±10.8	0.001 ***
日常役割機能(精神)	3	49.5±6.5	32	46.1±11.9	70	52.6±8.1	105	50.5±9.8	0.006 **
心の健康	3	50.0±5.5	32	46.3±9.3	70	50.8±9.1	105	49.4±9.2	0.069

4. 考察

4. 1. 追跡調査の進行状況について

2007 年の調査においては、504 名に対して調査票を配布し、報告書執筆時までに 212 名から回答を得た。その後も断続的に回答が寄せられ、最終的に 308 名（61%）を追跡することができた。

今回の調査では、現時点までに 224 名（73%）から回答を得ているが、一方でわずか一年の間隔での追跡であるにもかかわらず、4 名については転居先が不明で追跡できずとなり、そのほか 9 名が長期不在のため調査が不可能であった。

これらを考慮すると有効回答（追跡）率は 76%となり、追跡調査としては満足できる結果といえる。対象集団が当初想定していたよりも小さくなり、必ずしも強固なエビデンスを与えられるデータとはいえないが、今後縦断的な解析を進めることで補って生きたい。

また、少数ではあるが今回のような追跡調査を積極的に評価し、調査の継続を希望する参加者もいた。タクシー運転労働については、誰もが問題の存在を認識しているにもかかわらず、抜本的な解決策が示されているとはいいがたい。労働条件・労働環境が社会経済的状況に左右されやすい面もあり、継続的な調査の意義は少なくない。今回の成果をもとに、今後さらに組合等々にたいして働きかけを行い、規模の拡大や調査の継続の可能性を探りたい。

4. 2. 前回調査以降のタクシー運転労働をめぐる変化について

この調査では、労働の内容について二つの視点からデータを収集している。一つは労働時間や勤務形態、休憩・休日などの一般的な労働条件であり、もう一つは走行距離や実車時間・距離・回数、ノルマなど、タクシー運転の実態である。

前者については、年間を通しての平均的な状況を正確に把握することは困難と考えて、調査の直近（毎年 1 月）の状況を回答してもらっている。

その結果、勤務回数や勤務時間などの一般的な労働条件については、特に変化は認められず、安定していると考えられた。ただし、ほとんどの場合、その内容はタクシー運転労働に関する制限内の上限であり、例えば、約 85%の対象者が月 10 回以上深夜勤を行うなど、非常に厳しい内容である。

また、この調査で用いた調査票の作成に当たっては、これまでも使われてきた質問を用いたが、一部の回答者から必ずしも現状を反映した内容になっていないとの指摘があり、その結果、データから読み取れる労働条件が必ずしも現実を反映していない可能性がある。

一方、走行距離や実車に関する情報については、今回の対象者の労働の実態を把握する上で、大いに役立ったと考えている。2007 年、2008 年ともに働き方の変化が目立ったのは、過去一年間で実車時間・距離・回数が「減った」と答えたものが約 3 割存在した点である。縦断的にデータを観察すると、二回の追跡調査のうち、少なくとも

一回で実車が「減った」と答えたものはさらに増え、4割を超える。

一般には、タクシー運転労働においては、実車実績が直接収入に影響を及ぼすとされていることから、今日、タクシー運転手が以下に厳しい状況に置かれているかを容易に想像することができる。

なお、これに関しては、2007年12月のタクシー料金の改定も大きな影響を及ぼしていることを指摘しておきたい。料金の改定がどのように収入に影響したか、あるいは健康状態等に影響を及ぼすか等については、まだ評価できるほどには時間が経過していないと考える。今後、経過を見てゆく必要がある。

4. 3. 労働のあり方の変化と安全

安全に関しては、第一回の追跡調査から、ヒヤリ・ハットや交通事故の経験を聞いている。仮説としては、労働変化が影響を与える、すなわち走行距離が増えれば、単純な確率の問題として危険な事象の発生が増える、また実車実績が減ればそれがあせりを生んでミスにつながる、といったことが考えられる。

実際に、こうした仮説を検証することは困難ではあるが、2007年度のデータからは、仕事量が増えても減っても、危険事象の経験頻度が多くなる可能性があるという結果を得ている。今後、データの縦断的な解析をおこない、仮説の検証を進めたい。

4. 4. 労働のあり方の変化と健康状態

タクシー運転労働のあり方と健康状態の

関連については、今回の調査で大きく二つの仮説を持って臨んだ。一つは、仕事による負担そのものが、健康に影響するという仮説。もう一つは仕事が生活習慣を修飾し、それがさらに健康に影響を与えるという仮説である。

本調査の本来の目的は後者の検証にあったが、そのためには新規にタクシー運転労働に従事する労働者の集団を確保し、その生活習慣の変化を観察するという前提があった。しかし、最近、新規にタクシー運転手として仕事を始める労働者が極めて少ないことが明らかになり、この条件を満たすコホートを構築することはできなかった。

結局、小規模な集団ではあるが、経年的に労働の変化、生活習慣の変化、健康状態の変化を捉え、その関連を探るという手法をとらざるを得なかった。

当然のことながら、300人程度の小規模な集団では、病気あるいは病的な自覚症状の新規発生は非常に限られており、労働の変化との関連を検討するにはいたっていない。ただし、疲労など小集団であってもその多くが経験するような指標については、労働の変化との関連を示唆するデータも得られている。

例えば、2007年のデータでは、実車実績が増えた場合に身体の疲労が強く、実車実績が減った場合に神経の疲れが強いという結果であった。

このように、小集団ではあっても、解析のし方しだいでは一定のエビデンスを得られる見込みはある。さまざまな角度からデータの検討を進めたい。

4. 5. 労働のあり方の変化と QOL

QOL についても安全や健康に関する指標と同様に、労働の内容と関連すると考えて調査を行っている。しかし実際には、経時的なデータではあっても、その時間的な前後関係を明らかにする、すなわち労働が厳しくなったことによって QOL が低下する、あるいは QOL が低下することで労働が困難になる、そのどちらであるのかを判断することは難しい。

これまでの横断的な解析からは、二つのことが言えると考えている。まず第一点は、日本の一般国民との比較で、タクシー運転手の健康関連 QOL は低いといえる。これは、ベースライン、第一回・二回の追跡調査を通じて一貫して得られた結果である。SF-38 の 8 つの評価軸に関して、2008 年こそそのうち 3 つでかろうじて標準得点が 50 を超えたが、2006・2007 年については、すべての評価軸で 50 より低い。また、個々の評価軸で見ると、特に「全体的健康感」の評価が低くなっていることが特徴的である。

もう一点は、仕事のあり方との関連で、安全や疲労などと同様に、仕事が増えても減っても標準得点が低くなっている点である。どちらが原因であるかを今の段階で明らかにすることは困難であるが、少なくとも現状にあっては、タクシー運転手の QOL をより良い状態に保つためには、何よりも労働が安定していることが重要と考えられる。

ただし、こうした結果は、少なからず社会経済的な要因によってゆがめられている可能性がある。本来、労働衛生学の視点か

らは、労働の負担が軽減されることが望ましいと考えられるが、タクシー運転労働に限って言えば、そうした状況は収入の減少、ひいては生活の不安につながり、そのことが QOL の低下につながっているとの解釈も可能である。むしろ、一般的にはこうした解釈のほうを受け入れられているのではないだろうか。

5. おわりに

3 年間という限られた時間で、限られた人数での追跡調査ではあったが、多くの興味深い結果が得られた。まだ、経時的なデータ解析が終わっていないので、今後これらが進むにつれて、より説得力のあるエビデンスを提示できるだろう。

タクシー運転労働については、問題の所在は明らかである。長時間の過重な労働の改善が必要なことは論をまたない。しかし、例えばそうした現状を改善するために導入されたはずの、2007 年 12 月の料金改定も、顧客の減少、そしてその結果として QOL の低下というような結果をもたらしている可能性がある。

本調査の結果は、労働改善対策の導入の際に、その影響をあらかじめ複眼的な視点で考慮することの重要性を示唆しているといえるだろう。

本調査については、一部の参加者からではあるが、強い支持を得ることができた。今後さらに解析を進め、より強固なエビデンスを提示するとともに、引き続き現場の労働者との連携を保ち、具体的な改善の提案にまでつなげることができるよう、調査研究活動を強化したいと考えている。

最後に、本調査に協力していただいた、
自交総連東京地方本部の方々、そして、調
査に参加していただいた、ハイヤー・タク
シー運転手の皆さんに心より感謝する。

厚生労働科学研究費補助金（労働安全衛生総合研究事業）分担研究報告書

運輸労働者における仕事と生活、健康と安全についての追跡調査

《資料》

- ・ハイヤー・タクシー運転手の労働と生活、健康についての追跡調査
ー継続参加の手引きー
- ・ハイヤー・タクシー運転手の労働と生活、健康についての追跡調査
第3回（2008年2月） 調査票 その1
- ・ハイヤー・タクシー運転手の労働と生活、健康についての追跡調査
第3回（2008年2月） 調査票 その2